

平成29年度 姉妹校等留学プログラム

オーストラリア姉妹校交流（ベセル校）

(1) 学校・団体名/種類（派遣高校生的人数）

神奈川県立横浜国際高等学校／海外研修（2名）

(2) 渡航先

国／都市：オーストラリア／ウエスタンオーストラリア州アルバニー

外国の高校：ベセルクリスチャンスクール

(3) 期間

平成29年7月25日～平成29年8月6日（13日間）

(4) プログラムの趣旨・目的

授業参加や家庭滞在等を通じて異文化理解を深め、国際交流と親善を促進する。

(5) 活動内容

訪問校の生徒宅またはその関係者宅に8泊9日ホームステイし、訪問校の生徒、ステイ先家族と交流する。

訪問校では、授業参加・日本文化等日本についての紹介、スポーツ交流等を行う。

(6) 実績・成果

○派遣高校生 ATさん

今回のベセルクリスチャンスクールとの姉妹校交流は私の人生のなかで貴重な経験の1つとなりました。

私のホストファミリーはとても暖かく素敵な方々でした。どれだけ私のことを大事に思ってくれていたか、どれだけ優しい方だったか、どのように説明すれば良いのかすら分かりません。彼らのサポートがなかったら、こんなにも貴重で一生忘れることのない体験はできませんでした。感謝の気持ちでいっぱいです。

初めて彼らに会った日に綺麗なビーチに連れていってもらいました。そのおかげで私の不安や心配は全てかき消されました。ホストシスター、プラザーと一緒にプランコで遊んだことが思い出深いです。初日からとても楽しい時をすごしました。他にもいろいろな場所に連れていってもらいました。例えば、週末には彼らの牧場に行き、人生で初めてモーターバイクに乗りました。四輪のモーターバイクです。とても夢中になっていました。すごく楽しかったです。オーストラリアでは、人と自然との距離がとても近く、楽しませてもらっているのだから、自分たちで自然を守っていこうという人々の考えが見受けられました。

私のホストマザーはとても料理が上手でアルバニーで食べた全ての食事を楽しむことができました。ベジマイトやミートパイなどのオーストラリアの食べものもたくさん試しました。ベジマイトは日本人の口に合わないと思っていたのですが、とても美味しかったです。

近所の人たちを家に招待した時には、彼らとスポットライトというとてもエキサイティングなゲームをしました。スポットライトとは、暗闇のなかでやるかくれんぼのようなものです。協力プレイが必要なゲームだったので、すぐにみんなと仲良くなることができました。彼らはみんなとても明るく面白い人達でした。アルバニーではまるで全員が家族のようでみんながみんなを支え、守ってくれる人がたくさんいるように思えました。

ホストシスターとユースグループに行ったのもとても良い経験でした。そこは、私と近い年くらいの若者が教会に集まり、一緒にアクティビティなどをしながら交流を深める場です。そこでは年齢、男女問わず、とても仲が良く、まるで兄弟のようでした。たくさんの人と話し、笑い、本当に充実した時間をすごしました。地域内の交流が少ない日本にもこのような機会があれば、その問題は解決するのではないかと思います。

学校でもたくさんの人と出会いました。授業に参加しいろいろなアクティビティをしました。体育の授業では日本では経験することのないホッケーやネットボールなどをやりました。また、様々な年齢のクラスに行き、プレゼンテーションを行いました。日本でたくさん練習していたとはいえ、始めはすごく緊張しました。しかし、どのクラスに行ってもみんな反応が良く盛り上がりを見せてくれ、心配する必要は全くありませんでした。彼らのおかげでどのプレゼンテーションも成功に終わりました。一クラスは少人数かつ先生が二人いるので、生徒にとってはとても学びやすい環境でした。

学校で行った1つ1つのことがすごく良い思い出ですが、1番思い出に残っていることは、お昼休みにたくさんの子と話しをしたことです。ベンチに座り、お昼ご飯を食べながらたくさんお話しをしました。オーストラリアのことを知る良い機会だったし、日本のことを紹介できる良い機会でもありました。彼らは幼稚園の時からお互いを知っていることもあり、本当の家族のようで上級生は下級生を助けてあげたりしながらとても楽しそうで、一体感があるように見えました。私たちは違う国に住んでいて全く違う言葉をはなしているけれど、みんな同じなんだなあ実感しました。日本の学生とオーストラリアの学生の違う点の一つも見当たりませんでした。彼らはみんな、驚くくらい素敵な人達でした。

今回の姉妹校交流を通し、たくさんの人に出会いました。これは私が海外に行くことが大好きな理由の一つです。たくさんの人と出会い、彼らからたくさんのことを学び、自分を成長させることができます。アルバニーで経験したことは絶対に忘れません。今回の姉妹校交流で学んだことの中でもとてもためになったと思うことは、コミュニケーション力についてです。私は、どんなに英語が得意でも、言語以前に。人と関わる”ということの根本を理解し、コミュニケーションをとるということの大切さを学びました。違う国の人と深く交流するのに、“交流する相手の言語を流暢に話す”ということはその重要なことではないということに気付かされました。この先、大学に行ったり、就職したり、または海外旅行にいたりなど、数えきれないほどの人との出会いがあると思います。その一つ一つの出会いを無駄にすることのないように、今回学んだことをいかしていきます。また、アルバニーでの貴重な出会いを大切に、これからも交流を続けていきます。





○派遣高校生 KKさん

私は2017年7月25日から8月6日まで、オーストラリアのアルバーニーでの姉妹校交流に参加しました。滞在中はホームステイや姉妹校での授業への参加など、初めて経験することがほとんどだったため、とても刺激的で充実した毎日過ごすことができました。

私が通った Bethel Christian School (以下 Bethel) は日本の幼稚園生にあたる Kindy、小学校1年生にあたる Year 1 から Year10 までの生徒が通っており、私はほとんどのクラスの授業に参加することができました。姉妹校での授業への参加を通して、日本の学校と大きく異なる点に気がつきました。それは生徒の座席の配置です。Bethel の教室は、複数の机が向かい合わせになっていたり、大きな机を何人かで共有したりと、グループワークがしやすい配置になっていました。周りの生徒と相談しながら問題にとりかかれるため、だれもが積極的に授業に参加できる環境となっていました。

姉妹校では、授業へ参加するだけでなく、日本に関するプレゼンテーションも行いました。私のグループは、日本語での会話において欠かせない「オノマトペ」について、クイズを交えながら発表しました。小学校1年生などの生徒にとっては少し難しいテーマであるため、パワーポイントや効果音を用いてわかりやすく説明することを心がけました。そのおかげか、すべての生徒がクイズに積極的に参加してくれ、さらに常に大きなリアクションを示してくれていました。また、全校生徒の前で私たちがソーラン節と校歌を披露する機会もありました。オーストラリアとは全く異なる日本文化のダンスと歌に対し、どんな反応をされるのかが想像もつかなかったためとても緊張していましたが、ホストファミリーや先生方など多くの方々が私たちのパフォーマンスを褒めてくださりました。さらには「ソーラン節を教えてほしい」と話しかけに来てくれた生徒もいました。このように、Bethel の生徒たちは私が想像していた以上に日本文化に対して興味を持ってくれることがわかりました。

しかし、日本のことに興味を持って質問してくれた人すべてに完璧な答えを返すことができませんでした。その原因は英語力によるものではなく、日本に関する私の知識不足です。何度かホストファミリーから日本の政治に関することを質問されたことがありました。

私はそれに関しての知識がほとんどなかったため、英語力以前の問題で質問に答えることができませんでした。政治のほかにも動物や植物、料理のことなど、私は自分が思っていた以上に自分の国のことについてよく知らなかったのです。これにより、外国の方々と関わる上で共通言語である英語はもちろんですが、それ以上に自分の住む国、日本についての知識を深めることが大切だということに気づくことができました。

私は将来、グローバルに活躍できるような人になりたいと思っています。そのために、大学では英語や海外のことについて勉強しようという漠然とした考えを持っていましたが姉妹校交流を終えた今は、日本についてより深く学び、それを海外へ発信していきたいと思っています。これらのことは姉妹校交流に参加しなければ気づくことはできなかったし、さらに自分が大学で学びたいことも見えてこなかったと思います。私に大きな影響を与えてくれたこの姉妹校交流に参加することができたのは両親、そして支援をしてくださった方々のおかげです。今後は得たことや学んだことを活かして、さらに成長できるように日頃の勉強に努めたいと思います。

